

市民ランナーの動機付け要因に関する研究

A study of Runner's Characteristics —Focus on Motivation—

1K08B077-9

氏名 小澤 慎人

指導教員 主査 原田宗彦先生

副査 木村和彦先生

イベントが多く組まれている。

【序論】日本において 1970 代後半から 1980 年代前半にかけて巻き起こった第 1 次ランニングブームはほどなく沈静化を迎えることとなった。しかしまた 2000 年頃から美容と健康のために日常的にランニングを取り入れている女性タレントやファッションモデル達が注目を集めるようになったことなどにより、ランニングを日常的に取り入れている若い女性ランナーが急激に増加している。日本国民の健康志向の高まりに加え、2007 年には本格的な市民参加型大都市マラソンである「東京マラソン」がスタートしたことも大きな要因となりランニングは再びまた一大ムーブメントとなっており、現在は第 2 次ランニングブームが巻き起っていると言われている。

また近年日本人の結婚行動には大きく且つ重大な変化が生じつつある（柳川;1992）と述べられているように、現代の我が国では未婚化や晩婚化が深刻な社会問題となっている。そんな中、なかなか出会いの場がない社会人同士が、お互いの趣味であるスポーツを共に行う「スポーツ婚活」が注目を集めている。「スポーツ婚活」とは婚活ブームを背景にメディアが使い始めた言葉ではあるが、スポーツの持つ特性を生かし、スポーツをひとつの手段として婚活を行うというものである。ランニングを行いながら婚活を行うランニング婚活(ラン婚)が注目を集めている。皇居周辺でランニングを行うということは、一般的に言われるようなランニングそのものの魅力や、ランニングコースそのものの良さだけではないのではないかと考えた。近年の第 2 次ランニングブームによりランニングのメッカとなった皇居周辺のコースでは様々な人間との交流や出会いが生じやすいと言える。出会いの機会を創出するツールとして皇居ランニングは適しているのではないかと考えられる。事実、大手結婚情報サービス会社でもランニング婚活（通称ランコン）を応援する

【目的】本研究の目的は「新たな出会いの機会を創出するツール」、「コミュニケーションツール」または「婚活のツール」などとして、スポーツが注目されている中で、ランニングブームを象徴する場所のひとつである皇居周辺のコースにてアンケート調査を行うことにより皇居ランニング実施者のランニングに関する動機を明らかにし、実施者の実態を把握することである。

【方法】皇居周辺（東京都千代田区）のランニング実施者を対象としたアンケート調査を行った。調査方法は、皇居周辺のランニング実施者に直接用紙を手渡しし、記入後その場で回収を行った。この調査では計 150 部を配布・回収し 139 部の有効回答を得た。分析は SPSS を用いランニング参加の動機づけについての 8 因子 32 項目に対し因子分析を行い、抽出した因子の得点を算出した。分散分析はランニング参加動機の因子得点に、経験年数との一要因分散分析などを行った。

【結果】(1) 皇居周辺のランニング実施者は 20 代 30 代社会人が多い (2) ランニング実施者は未婚者が多く、特に女性の未婚者が多い。(3) マラソン大会経験者は多く、また出場経験のない人も参加することに対して肯定的かつ意欲的である。(4) 経験年数 5 年以上の人は東京マラソン以前からランニングを行っており、ブームの影響でランニングがもてはやされているから行っているわけではないからであると考えることができる。経験年数が 5 年未満と短いと「探索」動機と「コミュニケーション」が比較的強い傾向がみられる。逆に経験年数が長いと「ランニング活動性」因子が比較的強い。傾向として、初期動機は外発的要因によって動機づけられているが、継続要因は内発的要因によって動機づけられていると言えることができる。